

少子化/人口減少の問題に 関する経団連の考え方

2022年12月9日

(一社) 日本経済団体連合会

(1) 少子高齢化の中で持続可能で豊かな未来社会の確立を

- 「社会性の視点」を入れながら、経済成長を実現・継続
- 「分厚い中間層の形成」が重要な取り組み

(2) 持続的な成長のもとで、こどもからお年寄りまで広く安心を支える、公正・公平な全世代型社会保障を構築

- 「成長と分配の好循環」を下支えする全世代型社会保障
- 年齢にかかわらず、国民全体で適切な給付と負担を
- ICTを利活用し「見える化」、分かりやすく効率的に

(3) 経済界（企業）は、社会課題の解決と成長のけん引役

- 経済成長の柱と期待されるGX・DXへの投資
- 安定した雇用・就業機会の創出、持続的な賃金引上げ

2. 今後の子育て支援の在り方について

(1) 基本的な考え方

- 少子化/人口減少問題への対応は社会全体の課題
- こども基本法の目的、基本理念には賛同
- 現役世代の負担増の抑制、子育て支援策の拡充を通じて、「働きながら希望する数の子どもを産み育てることが経済的にも社会的にも尊重される社会」の実現を目指す

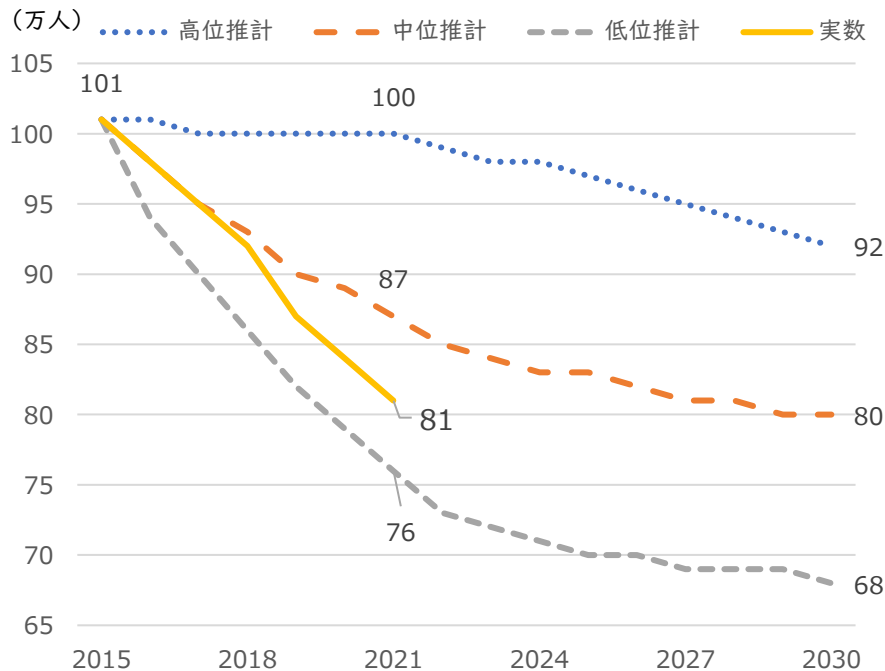
(2) 今後の議論への期待

- ① 全体像の提示
給付と負担をセットで、子育て支援の全体像を国民に提示
- ② 給付の在り方
拡充にあたってメリハリ付け（必要な方に必要な支援を）
- ③ 負担の在り方
国民の理解を得て、社会全体で公平・公正な負担を

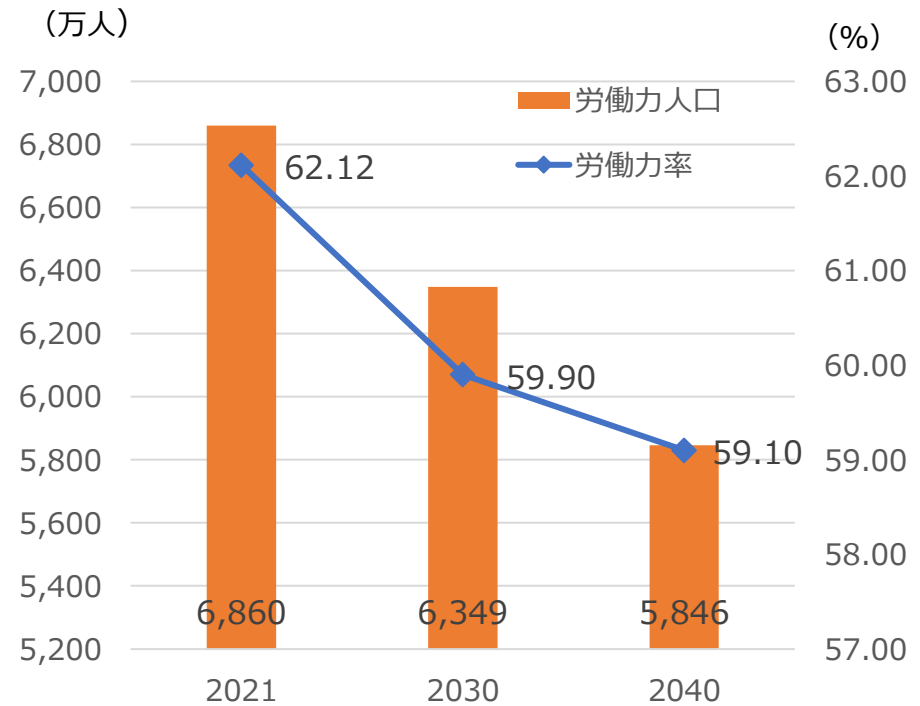
3. 少子化の現状・人口減少がもたらすもの

- 足もとの年間出生数は81万人まで減少。これに伴い、人口減少も進行しており、労働力人口は2040年にかけて減少
- 少子化・人口減少の進行は、わが国の経済活動、インフラ・社会保障制度などの社会基盤に大きく影響、「静かなる有事」が確実に進行

＜出生数の実数・推計＞



＜労働力人口と労働力率の見通し＞



出所：厚生労働省「人口動態統計（確定数・速報値）」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（2017年推計）」、労働政策研究・研修機構「労働力需給の推計（2018年）」、総務省「労働力調査（2021年）」より作成

※労働力人口は15歳以上人口のうち、就業者と完全失業者を合わせた人口

※2021年労働力人口は年平均。同年労働力率は年平均労働力人口／年平均15歳以上人口で算出。

※2030年、2040年労働力人口・労働力率は「1%程度の実質経済成長率（年率）」「若者、女性、高齢者等の労働市場への参加が一定程度進む」と仮定

4. 二つの対応の方向性

- 子ども政策を中心とする「人口減少のスピードを抑える施策の推進」と「人口減少に耐えうる社会システムの構築」を同時に進めていく必要

【人口減少のスピードを抑える施策の推進（ライフステージに応じた対応）】

生活基盤の確立

- 働きやすい職場づくり
 - 継続して就業し安定した収入が稼げる環境整備
- 等

出会い・結婚

- ライフ・デザイン教育等の啓発
- 結婚希望を叶えるマッチングを容易にする雰囲気醸成

妊娠・出産・育児

- 待機児童対策の推進
 - 仕事と子育ての両立、男性の家事・育児参画の推進
- 等

【人口減少に耐えうる社会システムの構築】

労働力の減少・不足への対応

- 医療・介護分野や、農林水産・観光等の基幹産業における生産性向上・DX推進
- 産学連携によるリカレント教育や成長が見込める産業への労働者の移動推進

社会基盤の持続可能性の確保

- 高齢者も含め負担能力に応じた仕組みへの変更、医療・介護等の給付の効率化・適正化の推進
- 効率的・効果的なインフラの整備・管理に向けたデータ・デジタル技術の活用
- 大都市圏と地方間の双方向の流れの創出

【環境整備】 育児休業取得促進・働き方改革

- 改正育児介護休業法の成立に合わせ、改正法の説明会や男性の育児休業取得推進に向けたセミナーの開催等による制度周知・気運醸成
- 「長時間労働につながる商慣行の是正に向けた共同宣言」の公表、働き方改革セミナーや過労死等防止対策セミナーの開催
- テレワークの活用に向け、柔軟な働き方に適した就労環境・支援制度やマネジメントの事例をとりまとめ、公表

【財源面での貢献】 事業主拠出金による待機児童対策等への協力

- 企業は、子ども子育て支援制度への拠出を目的にした「事業主拠出金」を厚生年金保険料に上乗せして負担
- 政府の累次の待機児童対策（「子育て安心プラン」（2018～2020年度）、「新子育て安心プラン」（2021～2024年度）等）に協力
- 上記2つのプランに必要な4,000億円の追加負担等はじめ、拠出金事業予算は約7,000億円